



除雪機
SB690
取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

Honda除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。

取扱説明書について

この取扱説明書は

- － 除雪作業をするときは、必ず携帯してください。
- － 除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
- － 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。



e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証しです。

具体的には、世界トップレベルの環境技術を投入した汎用製品に表示しています。

は じ め に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

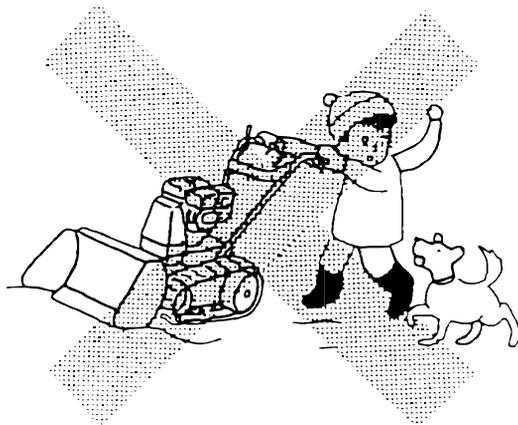
安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう	4
安全ラベル	7
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	8
エンジン スイッチ	10
燃料コック レバー	10
始動グリップ	11
エンジン回転調整レバー	11
変速レバー	12
走行クラッチ レバー	12
サイド クラッチ レバー	13
緊急停止装置	14
燃料計	16
変速機オイル タンク	16
エンジンをかける前に点検しましょう	17
ガソリンの点検	17
エンジン オイルの点検	19
バッテリー液の点検(JSタイプ)	19
エンジンのかけかた	21
運転操作のしかた	26
1. 始動	26
2. 運転操作	26
3. 除雪のしかた	28

除雪機の止めかた	29
定期点検を行いましょ	32
点検・整備のしかた	33
エンジン オイルの交換	33
点火プラグの清掃、調整、交換	35
クローラ張り調整	36
ヒューズについて(JSタイプ)	37
運搬するときは	38
長期間使用しないときの手入れ	40
故障のときは	42
主要諸元	43
配線図	44

安全にお使いいただくために

警告

- あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。
- 作業を始める前に
- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(17～20頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。

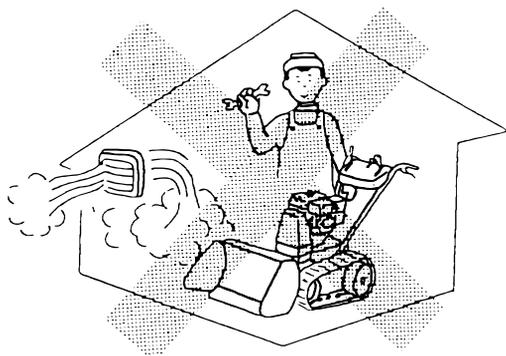


- カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

これだけはぜひ守りましょう

警告

- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前に予め除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。
- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒ぐつ等防寒用の身支度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。
- 本機の操作をおこなう場合には、必ずハンドルを持ち、中央部に位置してください。
- 定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
- ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。



警告

- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業人や近くにいる人にケガをさせることがあります。
- **作業中の注意**
 - 作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
 - 急発進は行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。必ず変速レバーを“N”の位置にしてから走行クラッチレバーを「入」にし、徐々に変速レバーを操作してください。
 - 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。また方向転回時は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
 - 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
 - 除雪中障害物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグキャップを取外し(35頁参照)、損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- **作業が終わったら**
 - 本機から離れるときには、必ずエンジンを止め、エンジンスイッチを“停止”の位置にし、JSタイプはキーを外してください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
 - 長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
 - 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを“停止”位置にし、点火プラグキャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。
 - 作業後は、除雪部の雪を取除いて格納してください。残った雪が凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

安全ラベル

除雪機を安全に使用していただくため、本機は安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルが、破れ、紛失、汚れなどで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

注意

- 始動時は必ず走行クラッチを「切」にしてください。
- 急発進により、ケガをするおそれがあります。

警告

死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

- 急発進防止のためエンジンを始動するときは、全てのクラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
- 点検整備時はエンジンを停止すること。

警告

はさまれてケガをするおそれがあるので、後進するときは必ず後ろを確認して、走行クラッチレバーを「入」位置にすること。

警告

火災や爆発により死傷するおそれがあるので、

- 給油時にはエンジンを停止すること。
- 給油口に火を近づけないこと。

火気厳禁

警告

排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。

注意

ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

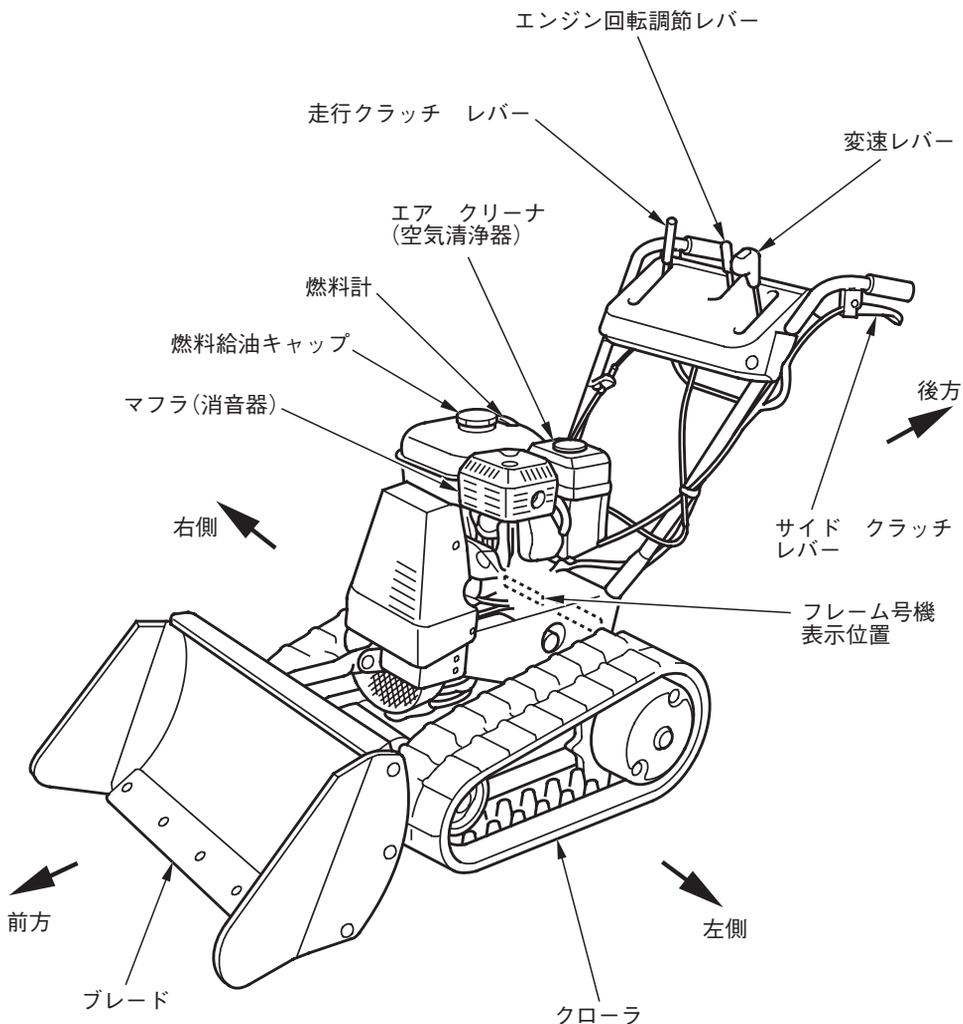
注意

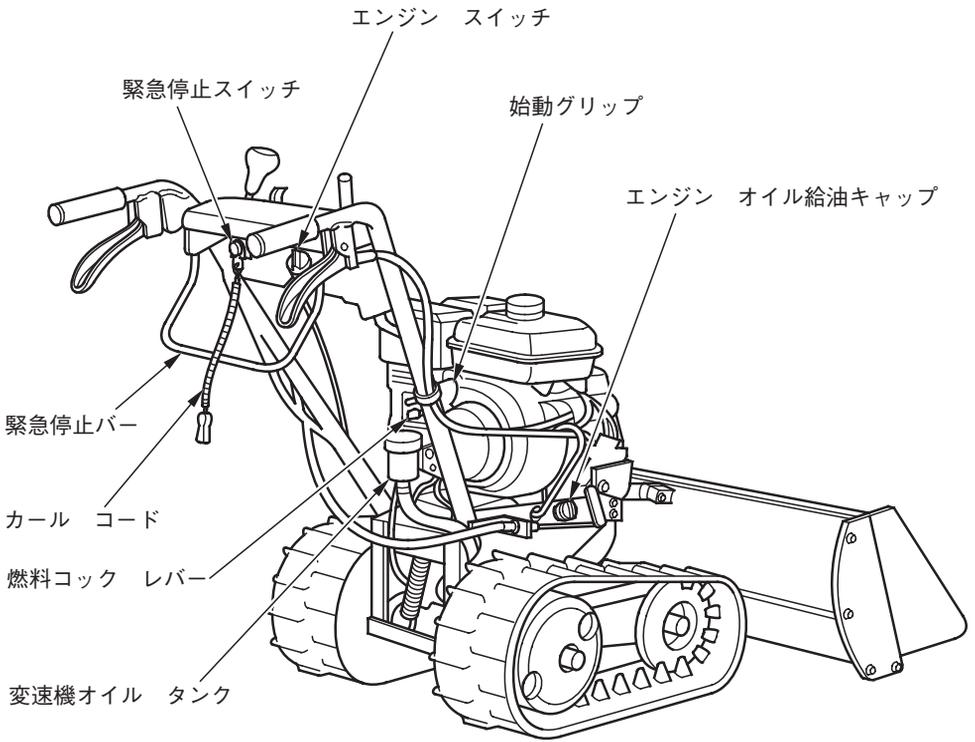
手や衣服が巻き込まれるのでカバー類を外してエンジンを運転しないこと。

注意

- 始動時は必ず走行クラッチを「切」にしてください。
- 急発進により、ケガをするおそれがあります。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう





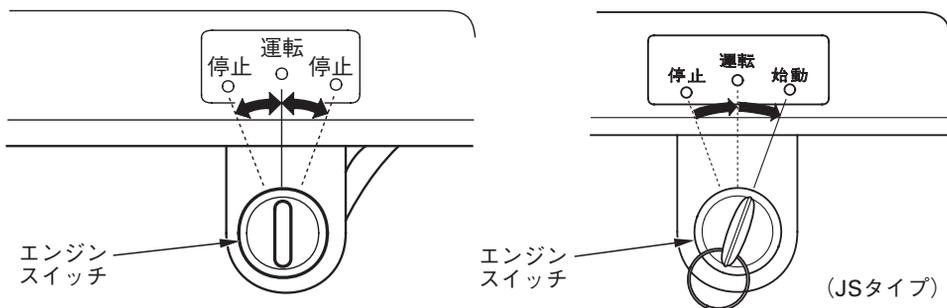
エンジン スイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

停止: エンジンを停止するときの位置です。(JSタイプはキーの抜き取り、差しこみができます。)

運転: エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

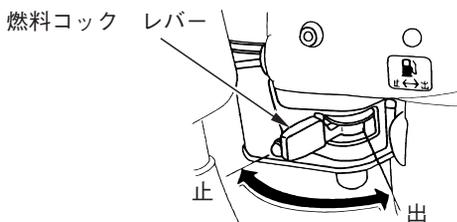
始動: (JSタイプ) エンジンを始動させるときこの位置まで回します。スタータモータが回ります。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に“運転”の位置に戻ります。



燃料コック レバー

燃料タンクからキャブレータ(気化器)までの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に“止”“出”の位置に合わせます。

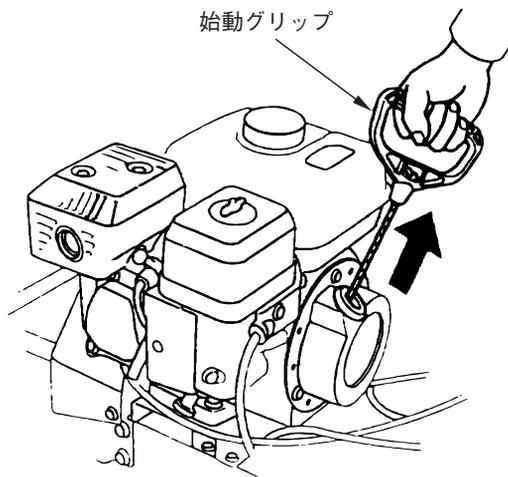


⚠ 警告

本機を運搬するときや、保管及び点検整備時本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを“止”の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

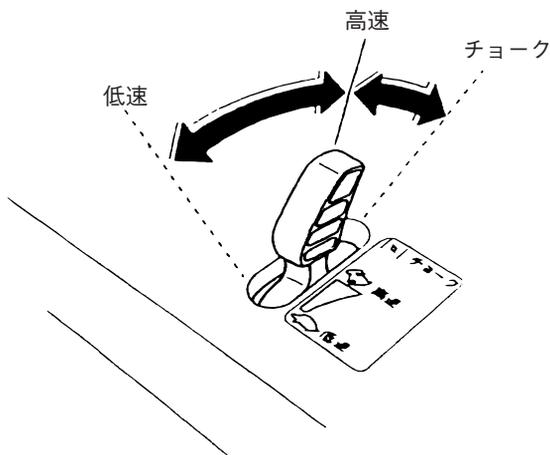
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。状況に応じて回転数を調節してください。エンジンを始動するときは、“チョーク”の位置に合わせてください。

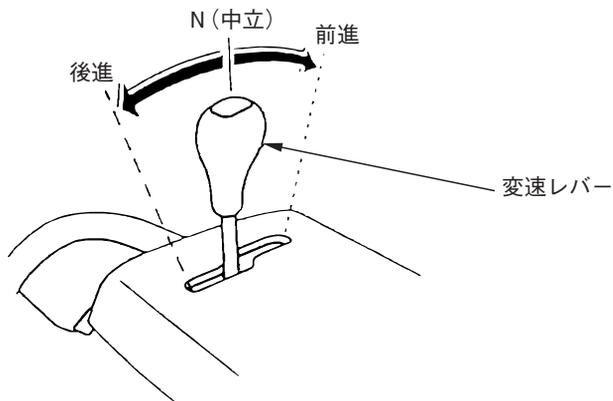


変速レバー

除雪機を前進、後進するときには操作します。

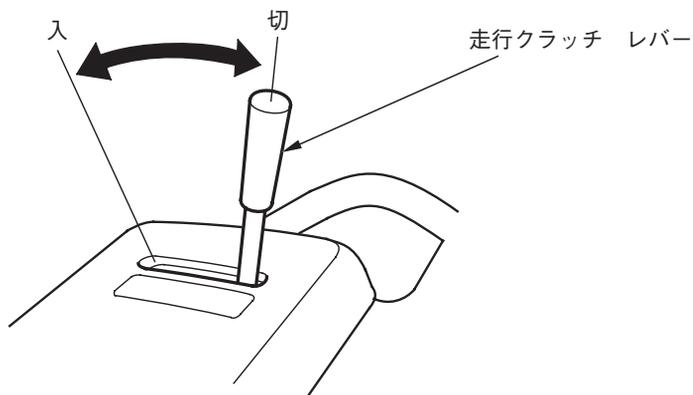
前進、後進の速度を無段階に調整できます。

除雪機を使用しないときは、“N”(中立)の位置にしてください。



走行クラッチ レバー

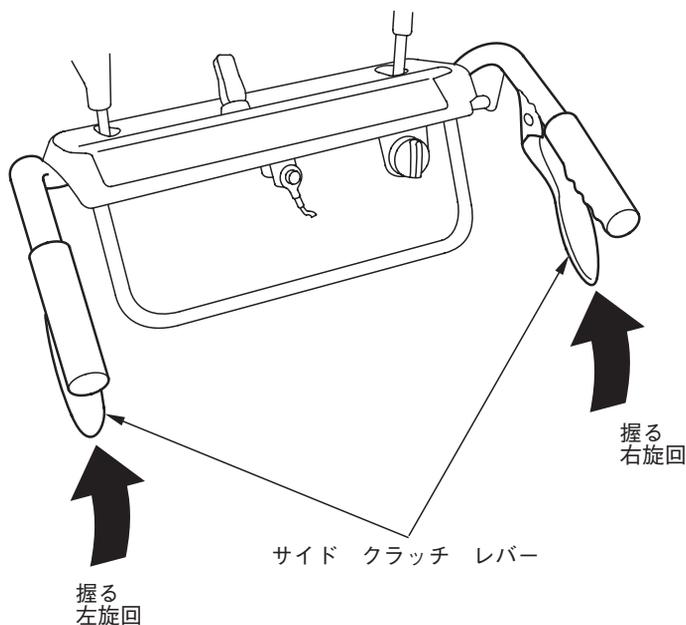
走行クラッチ レバーを前方へ倒すと走行可能となり、戻すと停止します。



サイド クラッチ レバー

進行方向を変えるときに操作します。

旋回しようとする側のサイド クラッチ レバーを握ると、握った方向に本機は旋回します。



⚠ 警告

- 旋回するときには、十分スピードを落としてください。雪の上での作業は滑りやすく転倒するおそれがあります。
- サイド クラッチ レバーを操作するときには、周囲の安全を十分確認してください。また、旋回時は本機の位置が急激に変化します。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

緊急停止装置

緊急に本機の走行や作業を停止させたい場合に使用します。緊急停止装置には次の2つがあります。緊急停止装置を操作すると本機は停止します。

⚠ 注意

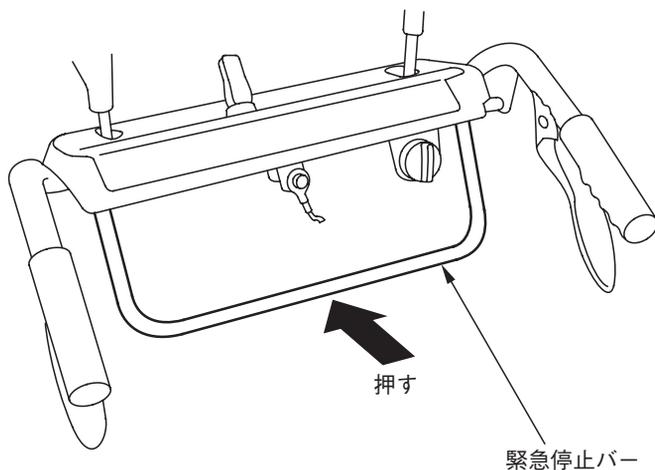
緊急停止装置は、緊急の場合以外は使用しないでください。

・ 緊急停止バー

後進時に滑って転んだときなどに使用します。バーを押すと走行クラッチが「切」になり本機は停止します。

取扱いのポイント

緊急停止バーはバンパではありませんので絶対に乗ったり、ロープをかけたりしないでください。故障する原因になります。

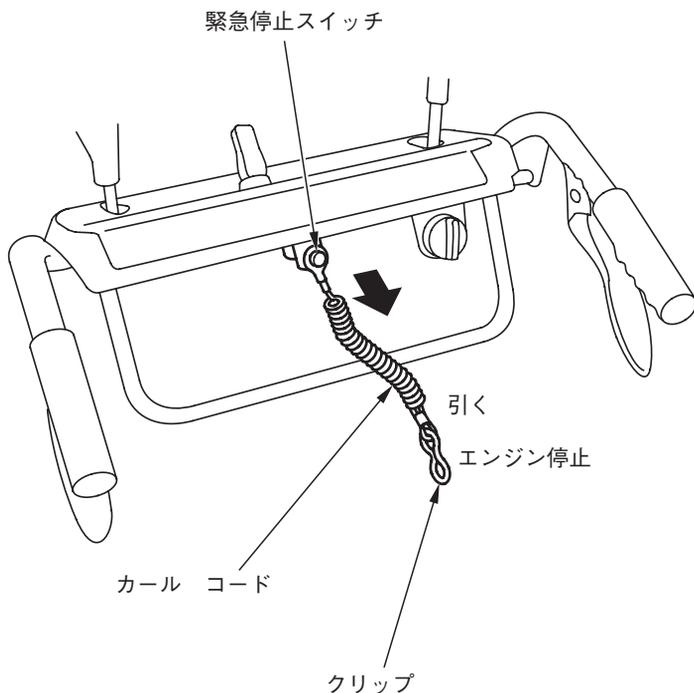


・緊急停止スイッチ

カールコードを引き抜くと停止します。カールコードのクリップを体につけておけば、本機が離れた場合などにカールコードが外れ、エンジンが停止し本機も停止します。カールコードが外れたままではエンジンは始動しません。再度運転する場合はカールコードを横から差し込みます。

⚠ 警告

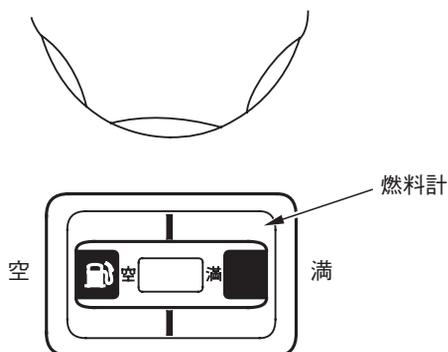
本機の運転中に、カールコードを運転者の身体の一部に付けていないと緊急時(ころんだときなど)にエンジンが停止せず、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



燃料計

燃料の量を表示します。

燃料計の針が“空”に近づいたら早めに燃料を補給してください。



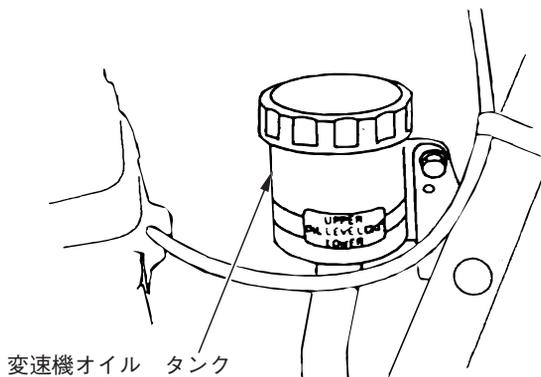
変速機オイル タンク

- ・ 変速機オイルは専用オイルを使用しております。オイルの補充はお買いあげ販売店にお申しつけください。

推奨オイル：（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン オイル。

- ・ 変速機オイルの点検は「除雪時期初めの点検」でお買いあげ販売店で受けてください。



エンジンをかける前に点検しましょう

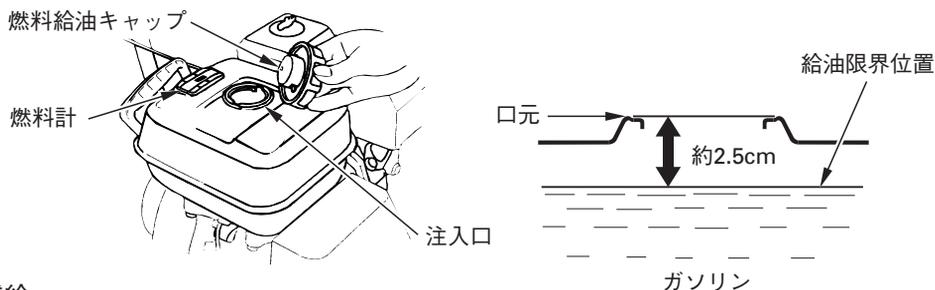
⚠ 警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップをはずして行ってください。

ガソリンの点検

点検

燃料計の針が“満”の位置にあるか確認します。少ないときには図の給油限界位置まで補給してください。



補給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 補給は燃料キャップを外し、燃料膨張を考慮し口元から約2.5cm以上の余裕を取ってください。
- 使用条件により給油限界位置はさらに低くしてください。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 換気の良い場所で行ってください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
- ・ ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
- ・ 燃料は注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

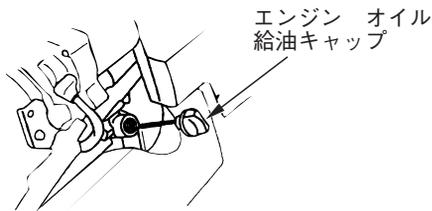
取扱いのポイント

除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入るとエンジン不調の原因になります。

エンジン オイルの点検

点検

エンジンを水平にしてオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



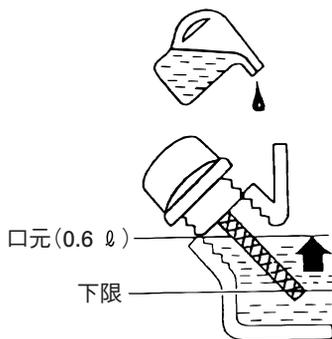
補給

- ・油面が下限に近いときには新しいオイルを口元まで補給します。
- ・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は33～34頁参照)

推奨オイル：(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正汎用寒冷地オイル (SAE 5W-30)またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE 5W-30エンジン オイル。

オイル容量：0.6ℓ



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

バッテリー液の点検

警告

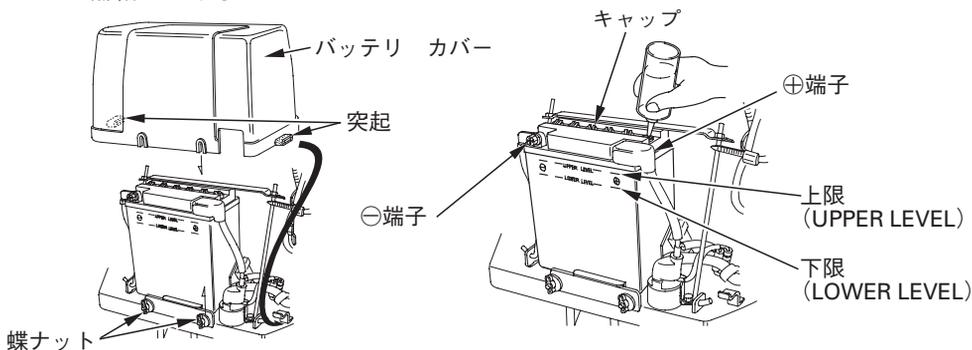
- ・バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- ・バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- ・バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- ・バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

《点検のしかた》

1. バッテリー カバー下部の蝶ナット 2 個を外し、バッテリー カバーを取外します。
2. バッテリーの液面が各槽とも上限(UPPER LEVEL)と下限(LOWER LEVEL)の間にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。

《バッテリー液の補充》

少ないときはキャップを外し、バッテリー補充液(蒸留水)を上限(UPPER LEVEL)まで補給します。



☆端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは確実に締付けてください。

☆端子に白い粉がついている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。

☆長期保管後使用するときや、バッテリーが上がり気味のときは補充電を行ってください。

3. バッテリー カバー下部の突起を図の位置にさし込み、蝶ナット 2 個を確実に締付けてください。

取扱いのポイント

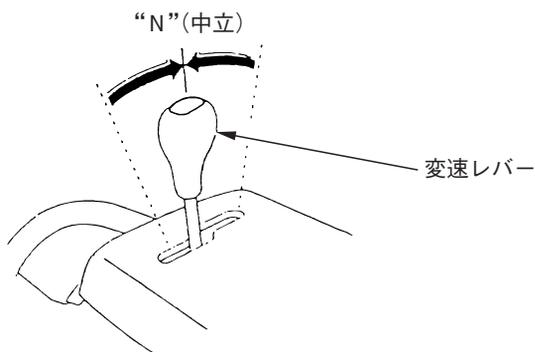
- 長時間使用しない場合には、バッテリーの⊖端子を外しておいてください。長期間保管中は、6 か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリー補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリー液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

エンジンのかけかた

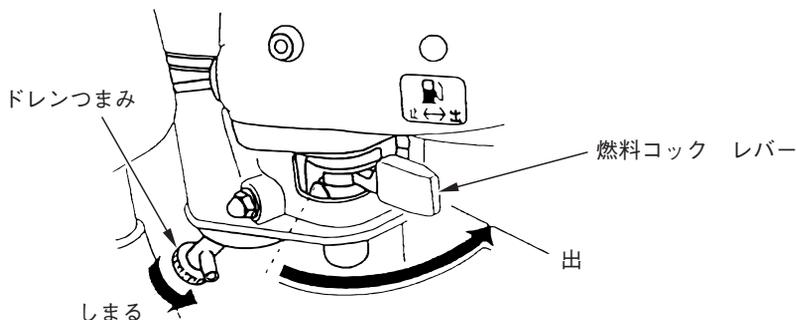
⚠ 警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”（中立）の位置にすると本機が空走する場合があります。

1. 変速レバーを“N”（中立）の位置にしてください。



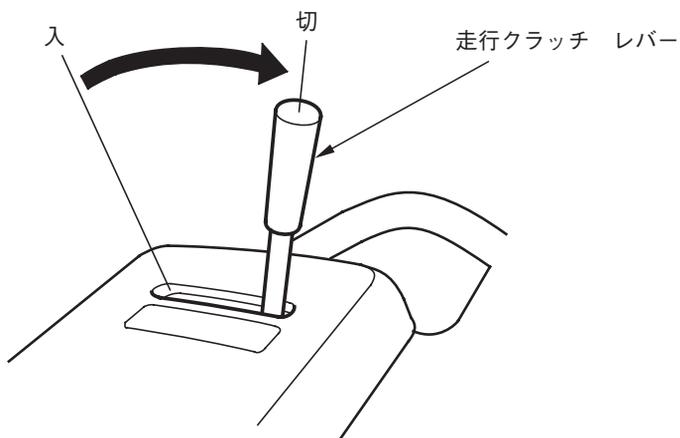
2. ドレンつまみが確実にしまっているか確認し、燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。



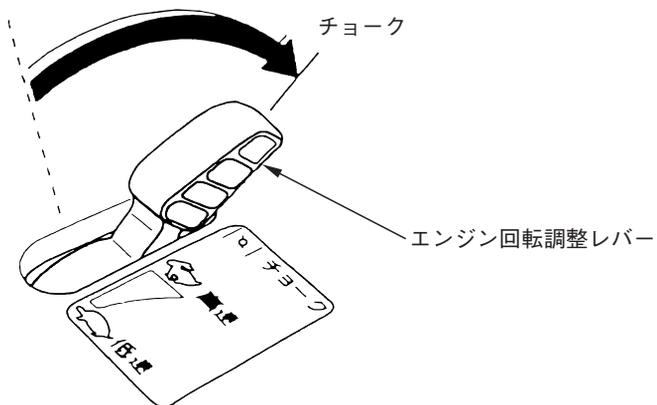
⚠ 警告

ドレンつまみがゆるんでいるとガソリンが漏れる場合があります危険です。

3. 走行クラッチ レバーを“切”の位置にしてください。

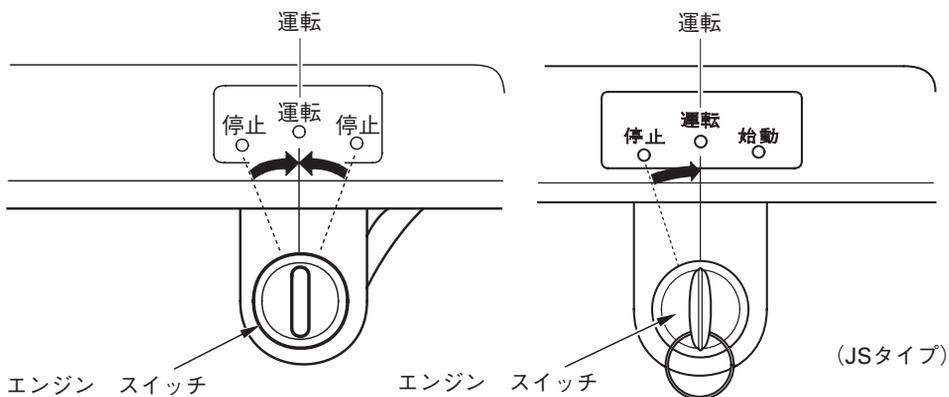


4. エンジン回転調節レバーを“チョーク”位置に合わせてください。

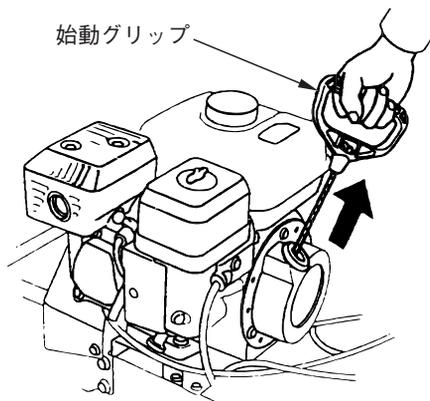


リコイル スタータによる始動

5. エンジン スイッチを“運転”の位置に合わせます。



6. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



取扱いのポイント

- 始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。始動装置を破損することがありますので静かにもとの位置にもどしてください。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

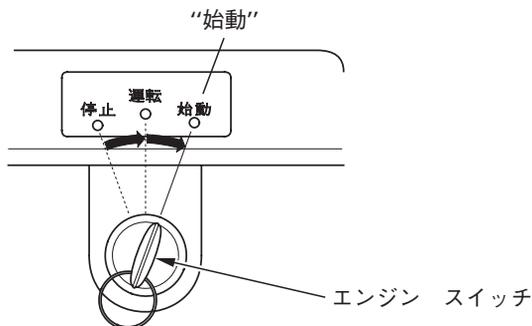
セルフ スタータによる始動 (JSタイプ)

7. エンジン スイッチを“始動”の位置まで回し、スタータをまわします。

エンジンが始動したらスイッチから手を離してください。“運転”の位置に戻ります。

⚠ 注意

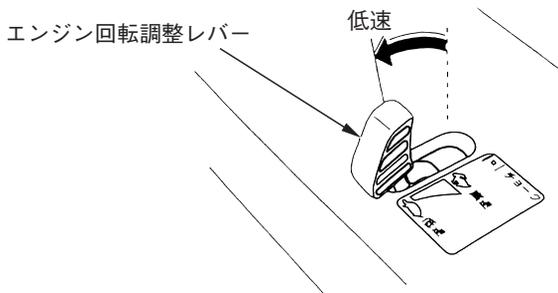
スタータを回す時は、走行クラッチ レバーを絶対に操作しないでください。エンジンが始動すると同時に本機が動き出し思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



取扱いのポイント

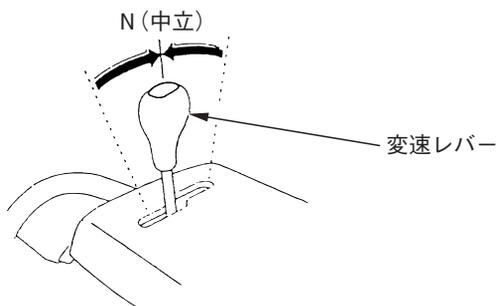
スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

8. 始動後2～3分間暖機運転を行い、エンジン回転が安定するのを確認しながらエンジン回転調整レバーを“低速”の位置に戻します。

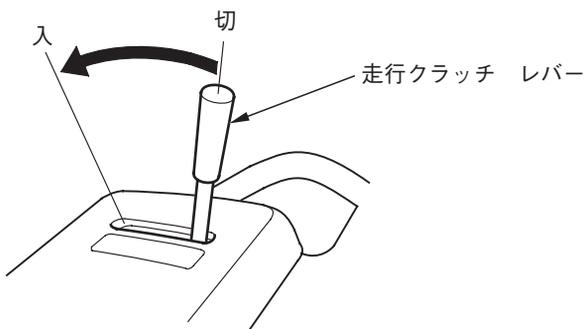


9. 暖機運転中に次の手順で変速機オイルを暖めてください。

- ① 変速レバーが“N”(中立)になっていることを、もう一度確認してください。



- ② 約30秒ほど走行クラッチレバーを“入”にしてください。



運 転 操 作 の し か た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠ 注意

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴などの防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

取扱いのポイント

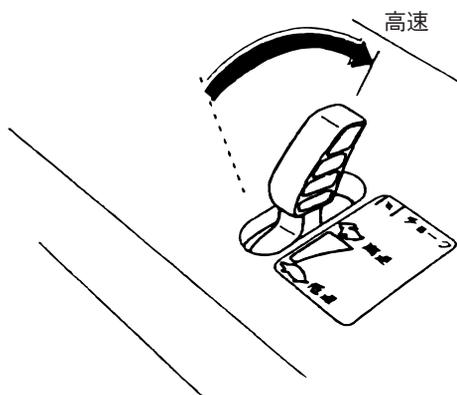
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

1. 始動

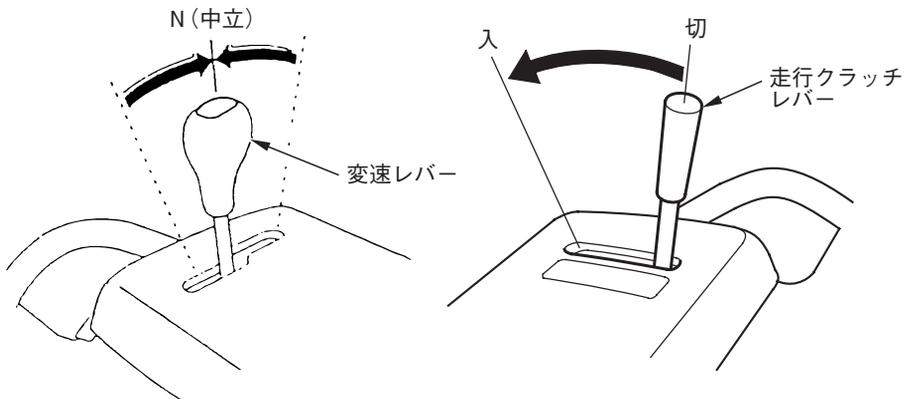
始動については21頁～25頁を参照してください。

2. 運転操作

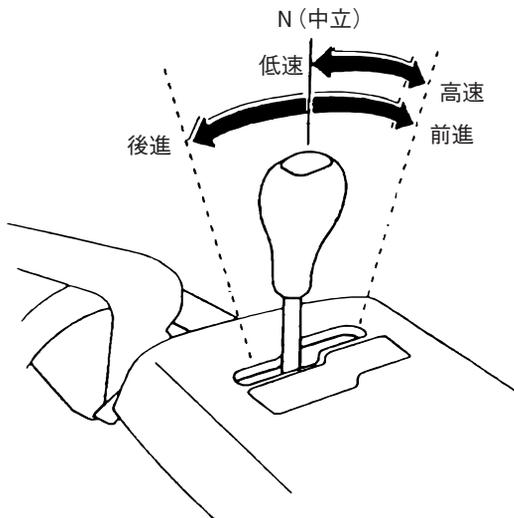
－1. エンジン回転調整レバーを“高速”に合わせます。



- 2. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認した後走行クラッチレバーを“入”にします。



- 3. 雪質・積雪量に合わせて変速レバーの位置を選び車速を設定します。
前進するときは…… “N”(中立)の位置から前方へ徐々に動かします。
後進するときは…… “N”(中立)の位置から後方へ徐々に動かします。

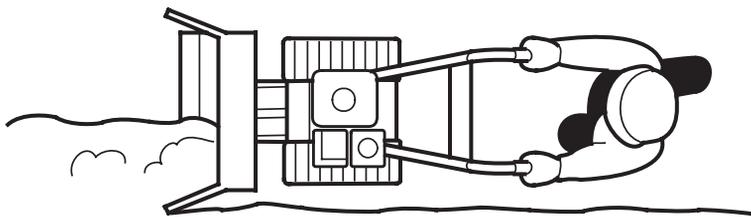


3.除雪のしかた

除雪作業はクローラをスリップさせずに行うことが重要です。そのためには次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

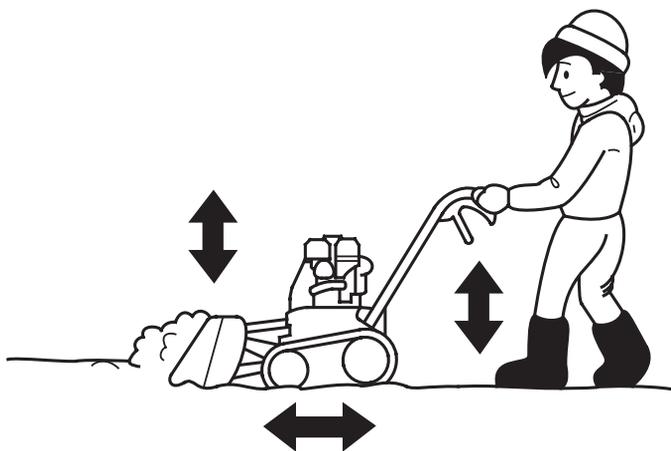
- 除雪幅を狭くする方法

深い雪や、固くなった雪の場合は低速で除雪してください。またこのような場合、除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



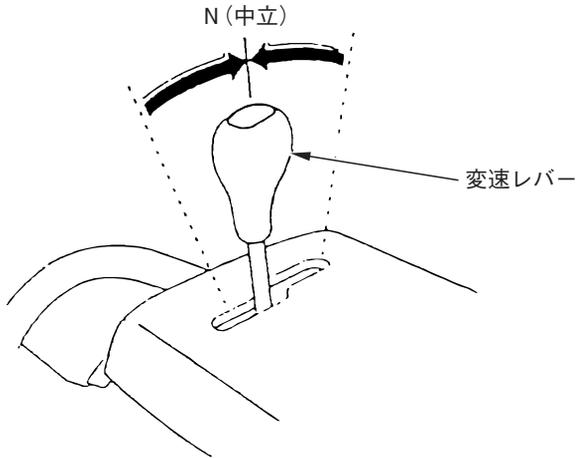
- 前後進除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時には、ブレードにたまった雪が多いと進みにくくなる場合があります。ハンドルを少し押し下げ、ブレードの高さを調整しながら前、後進を繰り返して除雪してください。

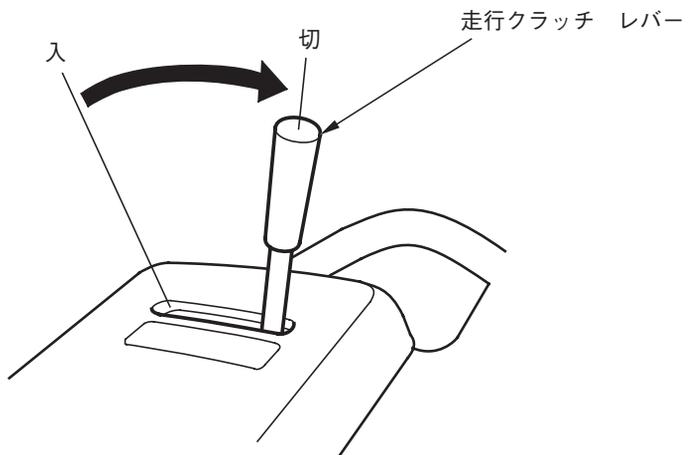


除雪機の止めかた

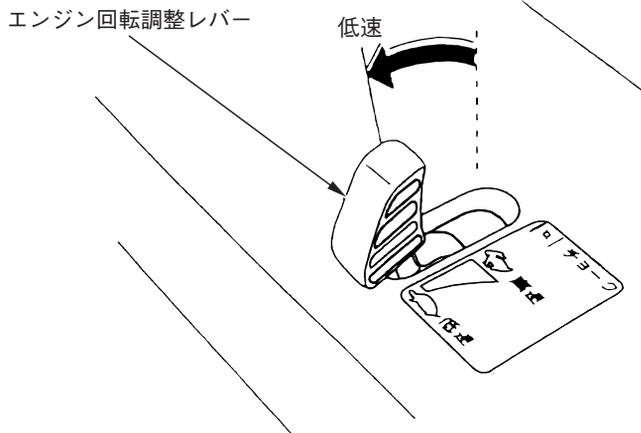
1. 変速レバーを“N”(中立)の位置にします。



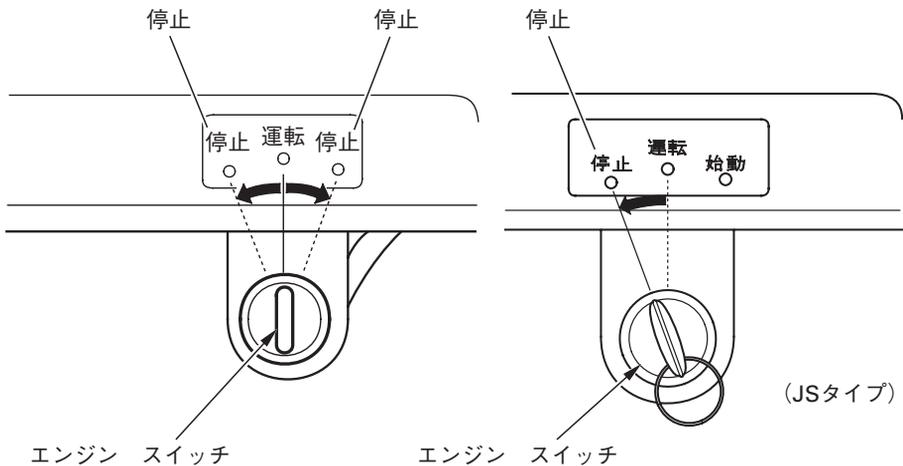
2. 走行クラッチ レバーを“切”の位置にしてください。



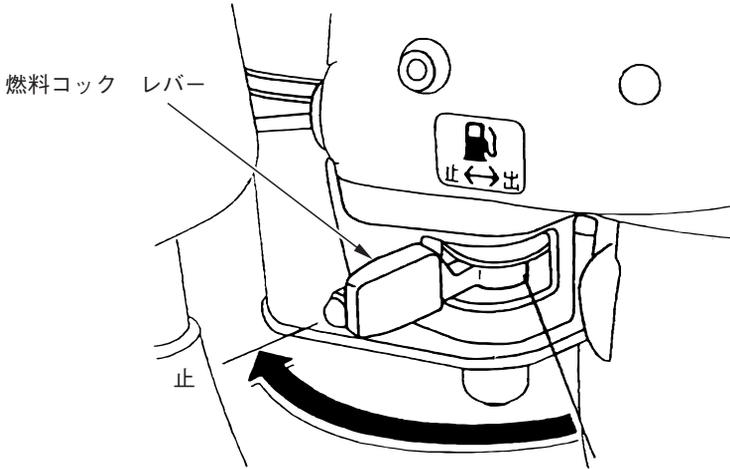
3. エンジン回転調節レバーを“低速”の位置にします。



4. エンジン スイッチを“停止”の位置に合わせます。



5. 燃料コック レバーを“止”の位置にします。



定期点検を行いましょ

お買いあげいただきましたHonda除雪機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょ。

定期点検表

点検時期(1)	作業前点検	1か月目 または 初回20時間 運転目	シーズン毎		4年毎
			除雪時期 初め	除雪時期 終わり	
点検整備項目 エンジン オイル	点検、補給	○			
	交換		○		
変速機オイル	点検		○(2)		
点火プラグ	点検、調整		○		
	交換				○(250時間 運転毎)
走行ベルト	点検、調整		○(2)		
クローラ	点検、調整		○		
走行クラッチ ケーブル	点検、調整		○(2)		
スロットル、 チョーク ケーブル	点検、調整		○(2)		
各部締め付け	点検	○			
燃料ろ過カップ	清掃			○	
タンク、キャブレターの燃料	抜き			○	
格納時各部防錆、給油	給油			○	
アイドル回転	点検、調整		○(2)		
吸入、排気弁のすき間	点検、調整		○(2)		
燃焼室	清掃	250時間運転毎(2)(3)			
燃料タンク、ろ過網	清掃				○(2)
燃料チューブ	点検	2年毎			
	交換				○(2)

- (1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- (2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。
- (3) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点 検 ・ 整 備 の し か た

⚠ 警告

- 点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチ キーを外し、点火プラグ キャップを取外して行ってください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：1ヶ月目または20時間運転時

以後：年1回除雪時期の初め

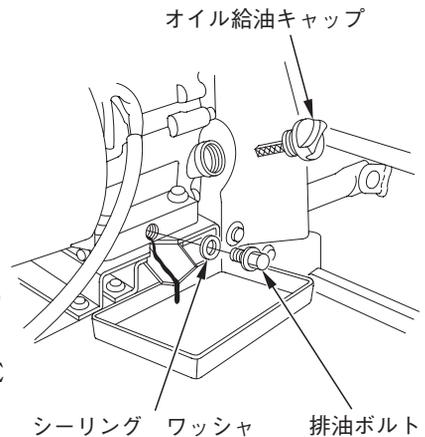
《推奨オイル》

(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン オイル。

《規定量》

0.6 ℓ

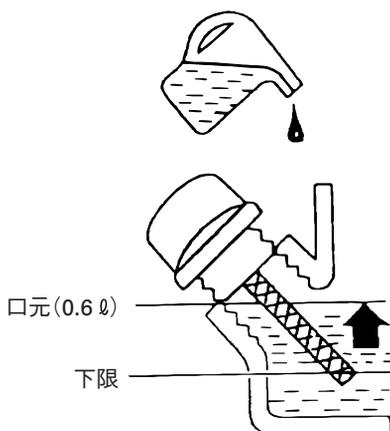


⚠ 警告

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

交換のしかた

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルをぬきます。
2. オイルがぬけたら新しいシーリング ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
3. 新しいエンジン オイルを口元まで注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- 外したシーリング ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング ワッシャを使用してください。

点火プラグの清掃、調整、交換

⚠ 注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

年1回除雪時期の初め

《交換時期》

250時間運転毎または4年毎

《指定プラグ》

BP5ES (NGK)

W16EP-U (DENSO)

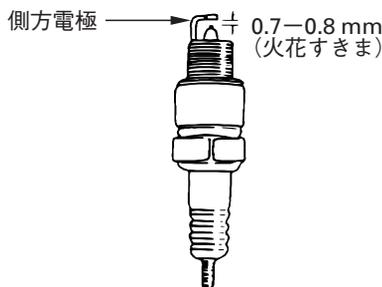
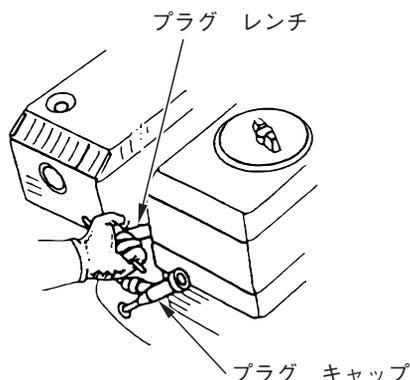
清掃のしかた

1. 点火プラグ キャップを取外してください。
2. プラグ レンチ(同梱工具)で点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落としてください。

《調整》

調整のしかた

側方電極を曲げて火花すき間を0.7~0.8 mmに調整します。



取扱いのポイント

故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。点検調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年1回除雪時期の初め

《点検のしかた》

クローラ中央部を強く(約147N(15 kgf))押したときたるみが下記寸法になっているか点検します。

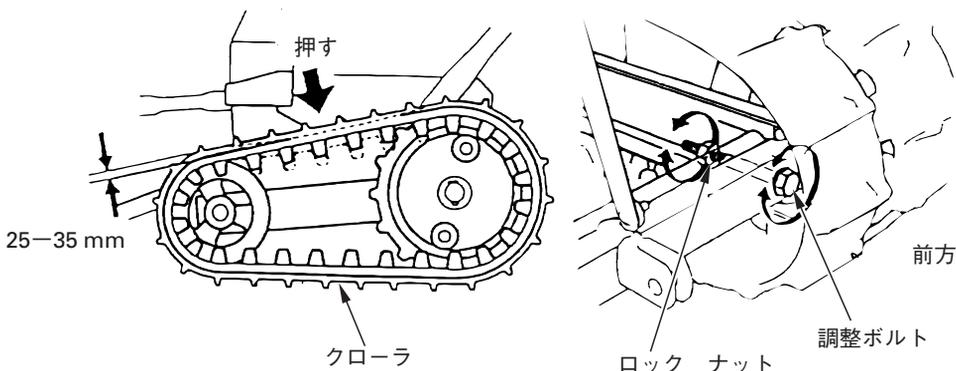
適正寸法：25－35 mm

《調整のしかた》

1. ロック ナットをゆるめて、調整ボルトを回して調整してください。
右に回わすとクローラは張ります。
左に回わすとクローラはゆるみます。
2. 規定量になるように調整してください。
3. 調整後確実にロック ナットを締付けてください。
4. 左右同じ方法で点検し、均等に調整してください。

取扱いのポイント

クローラ ゴムが凍結しているときは正しい張り調整ができません。
必ず凍結を取り除いてから調整してください。



ヒューズについて(JSタイプ)

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

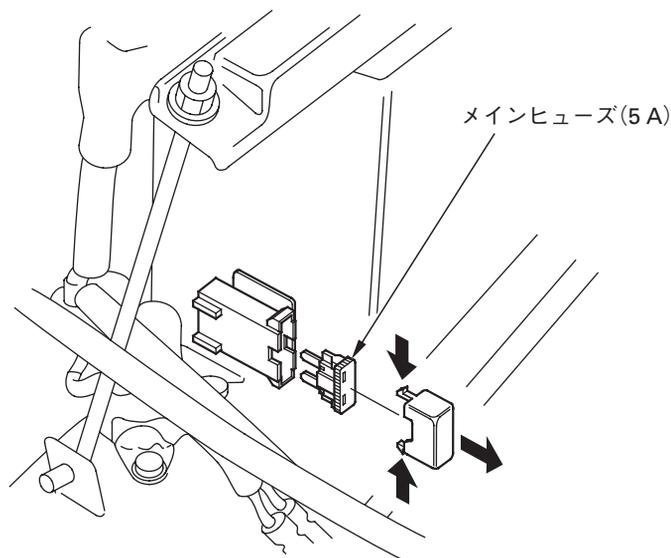
規定容量……メインヒューズ: 5 A

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1. バッテリー カバーを取外してください(20頁参照)。
 2. 切れたヒューズを新品のヒューズ(5 A)と交換してください。
- ☆指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。



運 搬 す る と き は

アユミ板を使ってトラックへの積み降ろし

⚠ 警告

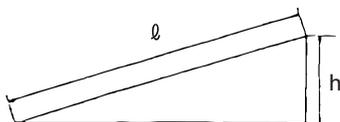
車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量+作業者の体重に耐えられる物を使用してください。

本機の総重量：145 kg

3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ(l)	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ(h)	50 cm	60 cm	70 cm

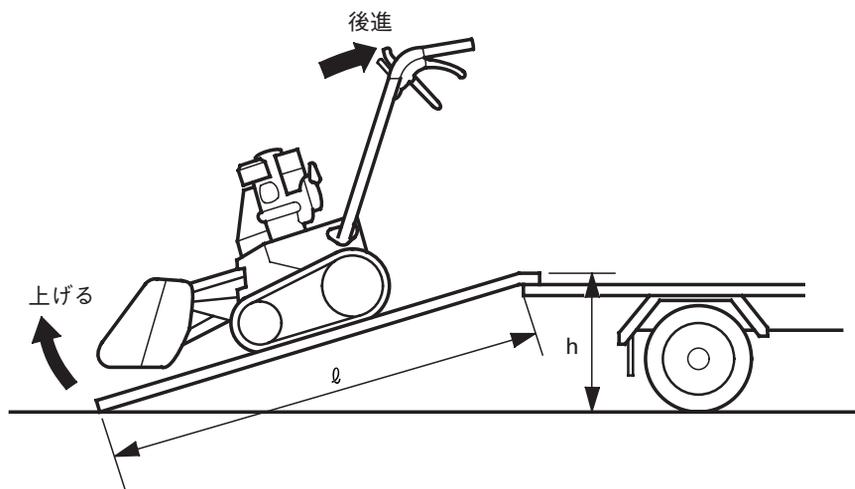
4. 燃料が十分あるか確認してください。“空”に近いとエンストしてしまうことがあります。

《手順》

1. アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。
2. 変速レバーを後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
3. 除雪部が幌などに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠ 注意

- アユミ板の上を移動途中に、サイド クラッチ レバーによる操作を行わないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。
- アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーをニュートラル ポイント(走行クラッチ レバーを「入」にしても本機が動かない位置)にして再始動してください。(21頁参照)
変速レバーは“N”(中立)の位置にしないでください。本機が空走することがあります。

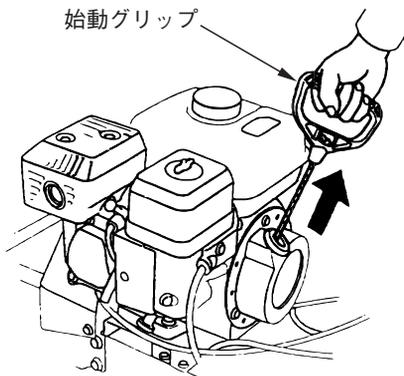


長期間使用しないときの手入れ

降雪シーズンも終わり長期保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1. 保管するときは、エンジン スイッチを“停止”の位置にし、JSタイプはキーを外してください。

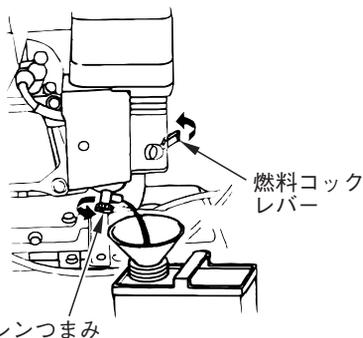
始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップをもどしてください。



2. 燃料タンク、キャブレター(気化器)のガソリンを抜きます。

《抜きかた》

1. 燃料コック レバーを“出”に合わせます。
2. 気化器のドレンつまみをゆるめてガソリンを容器に受けます。
3. 完全にぬけたらドレンつまみを確実に締付けます。
4. 燃料コック レバーを“止”にします。



⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

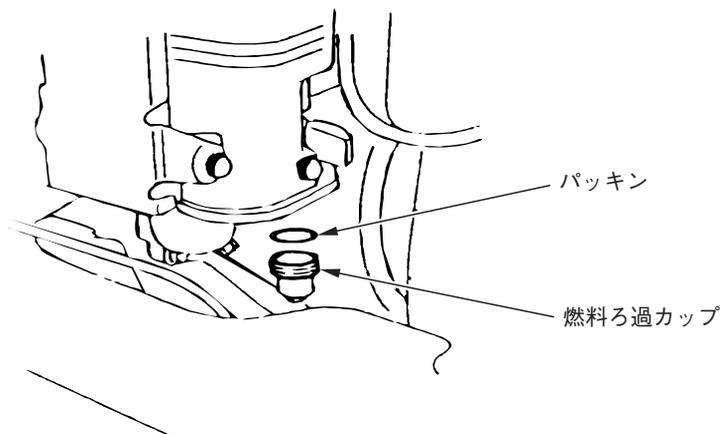
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

3. 燃料ろ過カップの清掃

1. カップを外し洗油で洗浄します。
2. パッキン、カップを取付け確実に締付けます。

⚠ 警告

作業は風通しの良い場所で行い、燃料の付近でタバコを吸ったり炎など火気を近づけないでください。



故 障 の と き は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確認しましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか? (21～25頁参照)
2. ガソリンはありますか? (17頁参照)
3. 燃料コック レバーは“出”の位置になっていますか? (21頁参照)
4. エンジン オイルは規定量ありますか? (19頁参照)
5. 点火プラグ キャップは確実に取付けられていますか? (35頁参照)
6. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適性ですか? (35頁参照)
 - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。
7. 非常停止スイッチのクリップが正しく取付けられていますか? (15頁参照)

主 要 諸 元

名 称	SB690	SB690、SB690H
タイプ	J	JS

エ ン ジ ン

名 称	GX160	
最 高 出 力	4.0 kW (5.5 PS)/4,000 rpm	
排 気 量	163 cm ³	
内 径 × 行 程	68 × 45 mm	
始 動 方 式	リコイル式	セルフスタータおよび リコイル スタータ併用
点 火 方 式	トランジスタ マグネット点火方式	
オ イ ル 容 量	0.6 ℓ	
燃 料 タ ン ク 容 量	3.6 ℓ	
点 火 プ ラ グ	BP5ES (NGK) W16EP-U (DENSO)	

フ レ ー ム

全 長	1,620 mm
全 幅	1,015 mm
全 高	1,035 mm
乾 燥 重 量	124 kg
除 雪 幅	1,015 mm
除 雪 高	340 mm

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-^{イフレアイオ}112010

受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町 8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①製品名、タイプ名
- ②ご購入年月日
- ③販売店名

HONDA
The Power of Dreams